

学校名：横浜市立平戸小学校担 当：第 6 学年氏 名：志賀 仁美

### 1. 今回の研修における目的やねらい

海外にルーツをもつ児童が少なく地域的にも異文化とのかかわりがあまり無い現任校では、子どもたちが身近に外国とのつながりを感じることができにくい。また、国際理解の時間だけでは学びが広がらず、また自分ごとにしてとらえることができずにいる。国際平和についての作文を書かせると、貧しい国＝かわいそうな人たちというイメージ強いことからよくわかる。そこで、本研修で私自身が海外へ研修に行くことを通して、子どもたちに身近に海外のことを知るきっかけにつなげ、子どもたちに新しい価値観の発見ができるようにしたいと考えた。

また、自身が他国の孤児院にボランティアへ行ったときに、子どもたちは新しいことに挑戦し、学ぶ喜びを素直に感じている姿を目の当たりにして感動を覚えたことがある。そして、開発途上国とされる国について私自身ももっと知りたい、そして私ができる支援は何かと思うようになった。このことを考えていくことは、私のためだけでなく子どもたちにとっても、安易に募金ということだけでない、自分にできることを探すことにつなげていけるのではないかと思った。だからこそ、教師の実体験をもとに興味を持ってもらえるような参加型の授業ができるようにし、また途上国についても子どもたちが身近にとらえてもらえるように本研修を生かし自分自身を高めていきたいと考えた。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

非常に短い間ではあったが実りが多く、自分としての目的をしっかりと果たすことができた。先生同士でいい具合に役割分担ができたことで、タンザニアの人にアンケートが取れたり、JICAの職員の方々、隊員の皆さんからお話ができたりすることで効果的に情報が得られ共有することができた。教えない、伝えたいことはいっぱいあるので、これから今ある膨大な情報を、開発教育の視点に立って、どのように組み立て、子どもたちに伝えていくかが課題である。

### 3. タンザニアから学んだこと

タンザニアやタンザニアの人々から学ぶことはとてもたくさんあった。日々の生活を見ていると、断片的ではあるかもしれないが、タンザニアの人々と日本人の間にとっても似ているところがあるように感じた。うちとけるまでに、ちょっと恥ずかしがっていたり、人前に出て話すのは少し苦手だったり・・・けれど自分が少し大変なことになっても相手をとっても大切にしたりする所から、タンザニアの人々の温かさを感じた。タンザニアの中でもすごく発展している地域とそうでない地域があったり、伸びている分野とまだまだ日々の生活が満足にならないところもあつたりと、今まさに変化の真ただ中にある国だったが、それでも環境が変化してもタンザニアの人たちのカリブ精神や互いを思いやる心というのは私たちも学ぶべき所がたくさんあるように感じた。ついつい、日本では、普段合理的にとか機械的にとかで動いてしまう部分が多くあるが、タンザニアの人々の行動は、「私たちは、お互いに愛し合っている・助け合っている」という言葉からもわかるように、心を大切にしているように感じた。私たちがつい、他人と比べて自分の幸せかどうかみてしまう所があるが、タンザニアでは、食事が食べられる幸せ、みんなが健康でいられる幸せなど、日々の何気ないことにもきちんと感謝し、幸せを感じているのとても印象深かった。現代の日本では失われている部分が多く、でも大切にしていかなければいけないことを再発見した。礼儀や、周囲に対する思いやり、コミュニティーとしての絆は日本でももう一度見直したいなと思った。

#### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

JICA事務所での報告会で、「違いだけに目を向けるのではなく、似ている所も伝えてほしい」と言われた言葉がとても胸に響いている。これから私は、身の回りの友達や家族、職場の人たち、そしてクラスの子どもたちに今回研修で学んだことを伝えていくことになる。環境の違いや貧しいとされる部分は話題にしやすい。だが、それだけで興味を引くのではなく、最終的にはやはり世界はつながっていて、どこにでもそれぞれの問題はあるが、学ぶべき所がいっぱいある。今隣にいる人を大切にしていくことから世界平和につながっていく。というメッセージを聞く人が自分ごとのように感じてもらえるように伝えていきたい。先生たちには、より多くの人に発展途上国についての興味をもってもらいたいし、開発教育に対して理解してもらいたい。そして授業で子どもたちに伝えることで、今までもっている価値観を変え、世界に目をむけられるようにしていきたい。

#### 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

研修では色々な人やモノなどの「であい」があり、また普段日本では思いもしなかったことを考えることがたくさんあった。本当に短い期間であったし、しかも広いタンザニアの中のほんの一握りの情報ではあるかもしれないが、私が見聞きしたこと、感じたことは旅行で得られない貴重な体験だったと思う。タンザニアではJICAの足立さん、インターンのローザさんそして、協力隊の隊員さん達がとても親身になって私たちの研修がうまくいくように支えてくれた。イリングでは隊員さんがたくさんいたおかげで、日本人が感じるタンザニアの生の情報を多く聞くことができたし、町の案内もとてもスムーズにさせていただけた。隊員さんが努力している姿は、逆に自分達のもよい意味で刺激された。日本で自分がもっとできることがあるのではないかと思うことができた。

また、早いうちから情報共有ができたメーリングリストは、忙しくてなかなか自分で調べられないことがわかったり、全員がそろわなくても意見を交換したりすることができてとてもよかった。

#### 6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

「格差社会」と日本でも言われるようになり、それはタンザニアにきてもすぐに感じることであった。研修の前半では次々に「発見」という新しい情報自分の中にどんどん入ってくるものの「格差」ということがどこか引っかかっていた。この現状をどのように見ればよい？結局私は何ができて、何を伝えればよいのだろうか？と自問自答をすることがあった。しかし、研修の日々を積み重ねていくと嘘のようだが見事に解決されていき、いろいろなことを受け入れられるようになってきた。それは、タンザニアの人々との交流であり、私たちの振り返りの時間の意見交換にあったと思う。

最後の討論会でも格差のことは取り上げられたが、結局明確な答えはでなかったし、岡田駐日大使と話していても支援の難しさもよくわかった。その中でも、これからの自分にできることは何かという問いに対し「今回知り合ったつながりを深め広げていく」という意見がでたことは、ひとつの答えではないかと思う。この発言を聞いて私も引っかかりがなくなりすっと腑に落ちたように感じた。この発言自体、格差を是正することにつながるわけではないのだが、研修を通してまさに感じたことから出た言葉であるからこそ重みを感じるし、真剣に考えた結果これしかできないことだが、絶対できることであるといえることではないかと思う。

そんな簡単なことではあるが、この10日間で得られたことは私の人生のなかでも貴重な財産になった。このように思うことができたタンザニアやそこに暮らす人々、支えてくれたJICAのみなさん、そして今回の最高に面白い最強のメンバーに感謝したいと思う。

#### 7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

今回、JICA横浜では初のタンザニア訪問で前年度の方のアドバイスと合わないことがあって少し準備に苦労した。イリングの方からメールはいただいていたが、思っていた以上に朝と夜が寒

く厚手の洋服が必要だった。荷物が多く、重量を気にしなければいけないので軽くて暖かいものがあるとよいと思う。日差しも強く紫外線をあびすぎると疲れるので、サングラスはつけていた方がよかったなと思った。訪問地に突然お土産を渡さなければいけないことが多かったので、小分けして渡せるお土産がたくさんあるとよいと思う。今回は、全体だけでなく個人的にも渡せそうなものを持っている人がいたので、回収してあとから会計にも含めてもらった。

映像機器についてだが、動画は臨場感が伝わってよいが、ゆっくりとったほうがよかったなと思った。バスの移動が多く、バスの中から撮影することがあったので細かいことだが手ぶれ防止や動いていても撮れる機会だときれいに撮れると思う。また、ミクミ国立公園の動物は、遠くに見えることも多いので、ズームができるものや簡単な双眼鏡があってもよかったなと思った。

日々の学校業務が忙しくて、なかなか計画的に準備ができなかった。わかってはいたが、意図的にタンザニアについて考える時間をとっておきたかったなと思った。そして、簡単なあいさつなど、スワヒリ語を覚えておくことは必須だなと思った。

## 8. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
7月29日(日)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	飛行機から見えるダルエスサラームの街並みは、森林だけではなく、ビルやきれいな家がたくさん見えた。また、屋根がキラキラ光っており（おそらくトタンのような屋根ではないかとのこと）どんな場所なのかわくわくした。実際に地につくと、思った以上に発展しており、日本のきれいな中古車がたくさんありここが想像していたアフリカ！？と思うばかりだった。日本の携帯やネットが使える環境やテレビ・冷房・シャワーと日本とあまり変わらない生活ができることに驚いた。
7月30日(月)	JICA タンザニア事務所表敬	タンザニアの人口約4200万人のうち、約400万人がダルエスサラームであるという話を聞き、あの活気がある姿がよりうなずけた。けれど、ダルエスサラームを見ていると気づかないが、まだ85パーセントの人は電気がないということを伺いとても驚いた。所長のお話を伺い、タンザニア滞在中に多くのことを学びたいと改めて思った。
7月31日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	タンザニアの概要と教育・道路・水セクターの方々のお話しはそれぞれとても興味深く私たちも多くの質問が上がった。「タンザニアはアフリカの中でも真ん中位のGDPで550位あるが、アジアと比べると相当貧困率が高い。」という事実はきちんと考えなければいけない点だなと思った。教育システムはしっかりできているなと思ったが、特別支援教育は相当遅れている点を伺い、どのように子どもたちが過ごしているのかとても気になった。しかし、それぞれのセクターの方々が課題を抱えつつも相手の意見を引出しながら熱心に取り組んでいるということがよくわかった。
7月31日(火)	市内視察（教材購入）	それぞれの教科の教科書を一通り見たが、英語表記のものが多く感じた。ケニアやイギリスで作られているものをよく目にした。スワヒリ語の大判でカレンダー型の掛け図を買ったが、ずっと買われなかったのか、かなり汚れが目立った。英語表記の教科書も買ったので、クラスの子どもたちがどのような反応をするか楽しみになった。

7月31日(火)	本日の振り返り	日本を出てから初めて全員でしっかり話し合うことができた。午前中のブリーフィングの内容の多岐で、また現地の人との関わりが少ないため、今後どのように視察を進めていくのがベストなのか少し悩んだ。この日にまとめたタンザニアに来て気になったことは「タンザニアにある格差」「子どもに何をもちかえり伝えるか」「写真をとる・とられるをどう考えるか。」である。
8月1日(水)	ミクミ国立公園、タンザム幹線道路改修計画	タンザニアはやはり広い！バスの移動に一日使うことに、わかってはいたもののそして座っているだけなのに疲れを感じた。また、ダルエスサラームから離れていくたびに色々と違った景色が見られた。ミクミ国立公園から見えた野生のキリンや象や鹿の群れは本当に素晴らしかった。今回は大きな動物が見られるとバスが止まってくれたが、タンザニア人のバスは高速で飛ばしていくと聞いて、もったいないなあと純粋に思ってしまった。
8月1日(水)	イリング隊員との懇談	隊員の人から率直に、タンザニアでの生活はどうかや、どうして隊員を目指したのかなどが伺えてとてもよかった。一クラス70人、先生が授業に行かない、子どもは並べない、体育は座学がほとんど…など隊員から聞く学校生活は日本では考えられないことが多かった。しかし、隊員の皆さんは次のようにも話してくれる。「タンザニアの人は優しいし、今の生活は協力隊の中では恵まれている。自分が活動することでこの先少しでも良い方向に変わっていけばいいなと思っている。」隊員は皆、志が高く私も頑張らねばと触発された。
8月1日(水)	本日の振り返り	イリングに来て、やっと私が想像していたアフリカに出会えた気がした。イリングに行くまでの道では土の家や水くみの子どもや女性をみかけた。この日から、いろいろな姿があって当然。これはこれでいいのかなと素直に受け止められるようになってきた。あと、隊員から聞いた話のせいもあるが、教育は人の根本をつくっていく大切な分野だなと思った。
8月2日(木)	クレルー教員養成学校 横山隊員	タンザニア全土の中でも数%の人たちしか行かない学校である。学校の中に寮があり、設備もよく整った学校だなと思った。横山隊員のPCの授業は、全部英語で自作のパワーポイントのスライドの完成度が素晴らしかった。PCの基本的な扱いを学ぶのかと思いきや隊員の教えている内容はきちんとソフトの使い方の方だったので、しっかりしているのだなと思った。生徒との意見交換は自分が英語を話せないことにすごく悔しい思いをしたが、とても内容の濃いものだった。「日本はどうして発展したのか、また私たちはどうしたら発展できるのか」という質問は教師全員が悩んだ。また、価値観の違いを感じた体罰についてや、生徒からの70人いる教室に対し、「自分が私たちの教室に来たらどのように教えるか」という質問もとても考えさせられた。
8月2日(木)	イフンダ中等学校 幾山隊員	学校までの道路がかなりの凸凹なのに驚いた。学校の先生たちはとてもフレンドリーで向こうの先生もビデオ撮影をしたり、一緒に写真を撮ったりした。学校の中だけでなく、寮の建物までみせてもらいとて

		も充実した見学になった。幾山隊員は、数学を教えているのだが、本来なら英語で全て教えなければいけないのだが、子どもたちがあまりわからないのでスワヒリ語7対英語3の割合で話しているということだった。また、こちらのカリキュラムは一度わからなくても全部内容を教えてから反復していくということだった。一年半で幾山隊員がスワヒリ語を覚えて授業をしていることがすごいと感心した。寮では自分たちで料理をし、手の上で包丁を使うことに驚いた。お昼は、お豆だけで、おいしかったが全部食べられないと思った。
8月2日 (木)	本日の振り返り	タンザニアの人々と密にかかわれた初めての日だったので、それぞれに色々な感想がでた。私自身は、初めて私が話すスワヒリ語で会話をしたり、笑いあえたりしたことがとても嬉しかった。全員で考えたことは、どの訪問先でも「日本がなぜ発展したか？」ということである。私たちはもう発展した中にたまたまいたので普段は本当に考えることがないことであった。しかし、彼らが和を大切にしている点は、日本と同じだなと感じたし、「私たちは助け合っているし、お互いに愛し合っている。」という言葉が言えるタンザニアの方から私たちが学ぶことは多いと感じた。
8月3日 (金)	ンゴメ小学校 谷村隊員	まず、ここでも谷村隊員が現地の方々と交わり一生懸命頑張っている姿に本当に感動した。壁に世界地図やタンザニアの地図をPTAなどの力でそろえたペンキで描きあげた。音楽や図工の教科がないことから、図工クラブを立ち上げ折り紙や絵をかかせたりたり、余剰時間に空き瓶で作った音で音階を教えたりしているそう。少ない資源の中で情操教育を取り入れている姿は、資源がある私たちは物があることに頼りすぎていて、もっと教材づくりを考えなければと思った。交流では、7年生と授業を行った。始めるまではこの研修の中でも最も緊張した。しかし、実際に始めると私自身もどんだのめりこんでいった。かえるの歌の輪唱を元気のよい反応で返してくれ、とてもリズム感がよかった。体育の授業もあまりないとのことだったが、大縄は抜群の運動神経だった。並べずに色々な方向から来るのには驚いた。
8月3日 (金)	コミュニティ訪問	病院や、水管理の村を見せていただいた。自分たちの力で町を良くしていこうという気持ちがよく伝わってくるものだった。病院は女性や子どもが多いことや1つの水道に何人もくるという現実途上国としての問題を感じるが、彼らには当たり前前の生活であり、そのことで今の自分の生活が苦痛だとか不幸であるという風には感じられなかった。少なくとも私の住んでいる場所より活気を感じる。また、日本に比べて貧しい生活だがそれが不幸ではないということをお伝えされるよい教材になるのではないかと考えた。
8月3日 (金)	Mkwawa 博物館	狭い場所であるにも関わらず、それぞれのブースに熱心に説明してくれた。結果としてはドイツが勝ったのだが、一部族がここまでできるのはすごいと思った。また、外のお墓の説明や伝説のお話は不思議なものが多かったがとても大切にしているのがよく伝わった。ただ、

		場内だけで1時間以上かかり、今日は見学内容も多かったのでかなり疲れた。
8月3日 (金)	本日の振り返り	本研修の中でも私たちが一番メインとしていた児童との交流があったため、みんな疲れている中でも活発な意見が出てきた。 この日のキーワードになったのは、子どもは興味があることには目を輝かせる。純粋に子どもはかわいく、言葉が通じなくても伝わるものがある。人々の元気が伝わってきた。ということである。ンゴメ小学校の熱烈な歓迎はタンザニア人のカリブ精神をまさに感じたものだった。それをまた2日で仕上げたことも驚いた。校長先生ももてなしのお茶の時間が少ないから、交流の時間を減らしたらとまで言ってくださったそうだ。本当をもてなすことを大切にしてくださっているんだなと感じた。
8月4日 (土)	地方道路開発技術 向上プロジェクト 視察	あまりODAのやっていることや、普段道路のことなんて考えることがなかったから、本当にそれらを考えさせてくれるよいきっかけとなった。自分の国にお金をおとす仕組みのLBTは是非うまくタンザニアに広まってほしいなと思った。実際に村まで行ってみると、思っている以上に道路が凸凹で道路を走る音もすごい音をしていた。村の人の話だと、平らな道ならば32キロしかないのが本来1時間で行けるのだが、現状は2時間かかり雨がふると通れなくなるので、徒歩や自転車で8時間かけて町まで行くそうだ。作ったものも売ることが出来ない。「道路」というものが、こんなに生活に密着しているのかと改めて感じた。
8月4日 (土)	イリング市内視察	イギリスのNGOがやっているネーマクラフトのお土産はとてとてもいねいに作られているなと感じた。ただ、イギリスが関わらなくてもできるのか？とも思った。イリングの町のお土産は大ざっぱだが、私にはとても愛着を感じた。隊員さんが懇意にしている小物のお店は、シングルマザーで手に職をつけるプログラムを真面目にやってここまでお店が出せるようになったそうだ。ゆがんでいたりするので、あと少し頑張れば！！と思う反面使う分には問題ないかと思ったりもした。カンガで採寸してもらったスカートもとてもよくできていたので、子どもの前ではきたいなと思った。
8月4日 (土)	専門家との懇談	海外で働く専門家の話は、私たちとは普段全く違う業種のお話だったので、自分の視野を広げる点でもとても興味深かった。タンザニアの発展を間近で見ている人でさえ、ここ数年の変化はとてすごいものだそうだ。ただ、仕事に関する取り組み方はまだ変わっていない人が多いというのは面白かった。
8月5日 (日)	イリングからダル エスサラームへの 移動	隊員の方が長時間のバス移動も慣れるものですよと言っていたのがよくわかる気がした。あれだけまだかぁと思っていた移動が今までの移動でだいぶ負担に感じなくなった。ミクミ公園を通っても、最初に比べると驚き方が少なくなっていた。タンザニアの人もきっとそうなのかもしれないなと思った。また、この日の食事はJICAの職員の方たちとだったが、さらにODAの話が詳しく聞けてとても勉強に

		なった。
8月5日 (日)	本日の振り返り	昨日分も含めて振り返りを行った。住民参加の道路プロジェクトを見れたのがとてもよかった。村の人の話から道路の重要性を良く感じることができた。ただ、JICAの専門家が来ているということで、「水・電気・道路」のインフラがどれが一番大事かの質問に道路と答えたが、正直な気持ちではないだろうなと感じた。私たちが個別にある老人にアンケートをしたときも、「このアンケートを何のためにする？私たちのために何かしてくれるのか？」といわれてしまった。援助慣れということを少し感じてしまったし、パフォーマンス力も感じてしまった。しかし、これまでの人との交わりを通し、日本人と似ている所が多いなと改めて感じた。ファシリテーターの木下さんが、中学生の指導案の骨子を提示してくれたことで、自分の中でも少し具体的に授業のイメージがわいてきた。
8月6日 (月)	首都圏周辺地域給水計画視察	フェリーにたくさんの人が乗っていることに驚いた。フェリーに乗る時間は短いのだが、タンザニアの人の生活に必要な交通機関だと感じた。日本が援助した水の組み上げの機械を大切に使っていた。ここは、海が近いため、少しだけしょっぱいそうだ。この水を使うことで病気も減ったそうだ。この村の学校も見学させていただいたが、床はボロボロで椅子も机もない教室もあった。いままで見た中では一番大変そうだった。
8月6日 (月)	JICA タンザニア事務所 討論会	昨日の振り返りで、テーマを決めて話そうということになったが、本当にそのようにセッティングしてくださってよかった。「タンザニアの格差」についてワールドカフェという手法を使って話し合いをした。格差を感じるの？という問いには皆すぐにはでてきたようだったが、なくすために必要なこと・JICAにできることという問いは難しく、最後の「私にできること」というのはずっと考えていかなければならないことだなと感じた。答えは出なかったが、下辻先生が言った「今つくりあげた関係を深めていくこと」とは私自身、本当にはっとさせられた。それがわかったことでも本当に実りがある研修だったなと思った。
8月6日 (月)	教材購入	ティンガティンガ村の作品は思った以上に素敵な作品で、それがとても安価な値段だったのでたくさん購入した。イリンガでもだいぶ購入ができていたので、スーパーでウガリの粉や紅茶などを買うことにした。できれば子どもにも味あわせたいなと感じた。
8月7日 (水)	JICA タンザニア事務所 研修報告会	所長や職員の方々の日本の子どもたちに伝えてほしいことが私自身もとても心に響いた。 「世界はどこでも一緒、友達になろう。」「どこに行っても格差はある。一緒に考えることが出来る、一緒に生きていきたいと思えるように…。」子どもたちに伝わるようにしたいと思った。そして、違うことばかりに焦点を当てるのではなく、「同じところ」を上手に伝えていきたいと思う。環境のせいはあっても、人はだれも悪くない！！そして環境がわるくても不幸とは限らない！！

8月7日 (水)	在タンザニア日本 大使館表敬訪問	岡田駐日大使は、私たちの話をとても熱心に聞いてくださり、丁寧に質問にも答えてくださりとてもありがたかった。日本の代表の方というのはこのような人がふさわしいのだと感じた。ここでも話題になった援助慣れの話で、「自分で必要とすることが大切。」というお話があったが、教育でも通じる部分があるなと感じた。どんなに一生懸命教えても本人のやる気がなければ、その場でしかやらないし、身にならない。だから、私たちは気持ちの部分でも高めるようにしているのだが、援助はそんな簡単にはいかない。改めて「援助する」というのがこんなに大変なのだと思った。
8月8日 (木)	タンザニアから日 本までの移動中お よび日本到着	やはり、飛行機に乗ってしまうとだんだんと日本の現実世界に戻されるような気がしてタンザニアにもっといたいと思った。普段考えることがないこともいっぱい考えたしとても学ぶことが多い研修になったなと感じた。同時に、ここまで一緒に過ごしてきたメンバーは、誰一人、大きなけがや病気もすることなく、少ない話し合いの時間の中で出し物をやったりできる素晴らしいチームだなと思った。縁があつてであったこの絆を大切にしたいなと思う。そして、学んだことを子どもたちや他の教員に伝えることでこの研修への恩返しをしたいなと思った。